

# 柔道しずおか

創刊号

平成8年12月 静岡県柔道協会発行

事務局 〒421-23 静岡市平野1-1 永田重郎  
TEL <054>293-2035 FAX <054>293-2335



## 巻頭言「柔道しずおか」の創刊によせて

## 講道館柔道の正しい発展のために

静岡県柔道協会会長 望月映英

大正十一年に設置された東京講道館有段者会が各地に分流、本県に於いては昭和二年五月静岡市柔道有段者会が結成され、柔道の研究と段級の審査を行い、会員相互の親睦と柔道の普及発達を目的として発展していった。

昭和二十年八月十五日、日本がポツダム宣言を受諾し未曾有の敗戦という悲運に遭遇した日である。当時の日本国民は明日のパンを求めるのにも精一杯であった。しかし人間は如何に飢えても何かしなくてはならないという精神構造はいつになっても生きとし生ける者の宿命の様に変わらないものである。社会情勢の混沌とした中であって、いち早くこれからの青少年の健全育成を目指し、我々の先人達は「青少年不良化防止」の名のもとにその市町村にある警察署

と交流、道場の使用許可を得るや柔道の練習によってその愛好者が集い合い汗を流し明日への息吹に情熱を傾けたものである。そして時代の要請により従来の有段者会が発展的解消を遂げ、昭和二十三年九月静岡県柔道協会として発足したのである。その協会もあと二年経つと創立五十年になる。私は平成二年五月柔道協会役員の温かいご推薦を受け、その伝統と栄光、誇り高い静岡県柔道協会五代目会長として現在まで役員の皆様のご協力により協会の諸行事を消化して参りました。初代会長、尾崎光晴、不世出の二代目、大蝶美夫会長、三代目・西田亀、四代目・山口国一各会長の後を受け、この協会をより以上に発展させ先人の業績に少しでも追いつきたい、それには如何にしたらよ

いか、腐心して参りました。しかし今や全国的に柔道界にとつて厳しい時期に来ております。対外行事がこなしきれない程、増えてきております。その上平成十五年（二〇〇三年）には二巡目の静岡国体が浜北市で開催される事に決定しております。

化遺産である、講道館柔道を再建していかなければならないのではないか。この所を切に柔道指導者に訴え絶大なご協力をお願いしたい。それには先ず、第一に日本柔道をよく知ると言う事から始めなければならぬ。私は折角「柔道しずおか」が発刊されるならば単なる行事、戦績だけを大きく取り扱うだけでなく嘉納柔道百年の歩みの中でここは是非柔道修業者に読んでもらい、その指導に導入される様な教養事項など読み易い様に内容を充実させ「柔道しずおか」を有意義なものにしたいと願うものである。編集にあたる方々大変な労苦であろうと思います。試行錯誤しながらでも頑張って頂きたいと心からお願いをし創刊の挨拶とします。

嘉納師範が創始された日本伝講道館柔道も世界に広まり、オリンピック種目にまで取り上げられる様になりました。この事については柔道人等しくご同慶にたえない次第であるが、その内容が競技柔道と化してしまつた事である。また選手一同が審判規定に振り回されてしまつてある事である。日本柔道としては如何にこれを本道に戻すかが大きな課題であると思えます。その事により日本柔道の見直しを図り、我が国が誇る大きな文

## 特集

静岡国体  
成功に向けて

I 安齊悦雄理事長に聞く

## 大きな視野に立って

会長を中心に三地区一一致協力して



今や柔道界はさまざまな難問を課せられている。静岡県柔道協会においても例外ではない。そこで、県下の柔道界の現状と課題を安齊悦雄理事長にお聞きしてみた。

問 柔道人口の減少傾向が指摘されて久しいが、この点についてどうお考えですか。

答 先日(11月5日)も全柔連の普及委員会に出席してきたばかりですが、この問題は、静岡県ばかりではなく、全国的な傾向です。

単に少子化といっっては済まされない問題だと思います。

子どもたちにとって、また、その親たちにとって、現在の柔道は魅力的なものになっている

のかということもあります。

いたずらに勝敗ばかりにこだわらず、礼法をおろそかにしている現状では、本来の武道としての柔道のすばらしさを人々に示すことはできないのではないかと。

柔道の原点は何かをよく指導し、これからは少年の柔道大会には、「さわやか賞」のようなものを設けて、勝敗にこだわらず試合ぶりや態度の望ましい選手を表彰していくというのも一考だと思えます。

県協会としても、まだ十分とは言えませんが、小学生選手育成のための活動を奨励し、予算化してきているところで。

問 静岡国体まで後7年。なんといっても、競技力向上が一番

の課題と考えますが、それを担うのは、今の小・中学生です。どんな強化策を講ずればいいのか、

答 今年の広島国体は、成年の部で、第五位入賞、少年も準優勝の熊本に惜敗したが、実にがんばってくれたと思います。本県の柔道のレベルは決して低くはないと思えます。

全中では東海大一中勢の大活躍。女子にしても、昨年のインターハイで市立沼津が三位。今年の県予選は、常葉学園橘や庵原高校がその市立沼津をしりぞけ台頭。層が厚いと見えます。

競技力向上にとって指導者のレベルアップは不可欠の条件です。その点、本県は、強化委員

会を中心に、小学生・中学生・高校生ともに充実した指導陣に恵まれていると思います。

さらに、一層、若手指導者の育成のために日体協公認コーチを増やしてゆくために、積極的に協会が働かなければならないと思っています。

また、現実には、柔道部顧問やコーチ不足のための廃部という事態も耳にしております。協会としても責任をもって良い指導者を派遣できるよう、人材バンクのようなシステムをとっていかなければならないと考えます。大きな課題としては、町道場、中学校、高校とそれぞれには、すばらしい実績を持った指導者が、選手育成に献身的に尽力し



てくれているものの、それらが組織的に、一貫した競技力向上策になっているかということだ。

自分の手がけたチームさえ強くなればそれでよしとすることから脱皮して将来の静岡の柔道を発展させるために、大きな目で選手を育てていこうという発想が大いに望まれます。

そのためには、小・中・高が

互いに情報交換を密にして、協会としても、どこにどんな有望選手がいるのかが常に見えていけるようなネットワークを作っていくかと思っております。

問題は、折角すばらしい選手を育てても、大学等に進学して、いざ就職ということになると、ふるさと静岡ヘリターンしないと、できない、という現象です。

ひとつには、県下には柔道選

手を積極的に受け入れてくれる大企業が、残念ながらありません。有望な選手が安心して将来を託すことのできる受け皿を協会としても積極的に開拓してゆく努力が必要です。現状では警察官、教員等、官公庁がそうした受け皿になると考えられるので、大いに働きかけていかなければならないと思っております。

◎ 柔道人口の減少にともなう、協会の財源難が現実のものとなってきていると聞きます。財源確保についてどう見直しを立てておられるのでしょうか。

◎ いちばんの難問だと思えます。

行政改革ではありませんが、協会としても大いにムダをなくし、時には、役員の手弁当ということもお願いしなければならぬと思えます。

しかし、単に受けの姿勢での困難な状況を乗り越えられるとは思えません。

審査や月次、形講習会などまだまだ受験生、受講生を待っているのが現状です。柔道人口拡大にはPRが絶対不可欠です。去る十月十二日、静岡市建設業協会50周年に、協会が協賛して、「ヤワラちゃん田村亮子講演会」が実現しました。会場をびっし

り埋めた少年少女たちの熱気は大したものでした。こうした試みが、これからも各地でどんな生まれたいけたらと思えます。協会としては、静岡国体基金づくりに取り組み、すでに三年目を迎えております。役員や道場関係者には、日頃のボランティア活動の上に、さらに金銭的なご協力をお願いしているわけで、本当に頭の下がる思いです。快く醸出していただいているみなさんに衷心よりお礼申し上げます。

る次第です。そして、このご厚意に応えるには、なんととっても、静岡国体をすばらしい大会に成功させることだと思えます。そのために、望月映英会長を中心に東、中、西各地区一致協力して、その体制を固めていくことが何よりの私たちに与えられた課題だと思えます。柔道を愛する多くのみなさんの今後一層のご協力ご支援をお願いする次第です。

### —— 8年度後半の主な行事 ——

#### 県関係

12月15日(日)

幹事長予備会議 (10時静岡・大会要項案作成等)

平成9年

1月12日(日)

幹事長会議 (10時静岡・年間行事案作成等)

12月25・26(日)

全国高校柔道選手権予選個人・団体 (10時草薙体育館)

2月2日(日)

全日本柔道選手権大会県予選 (10時藤枝市武道館)

2月11日(火)

静岡県3地区対抗団体柔道選手権大会 (10時30分浜北市体

#### 育館

3月23日(日)

全国少年柔道大会県予選 (10時藤枝市武道館)

東海・全国関係

12月7・8日(日)

福岡国際女子柔道大会

12月21・22日(日)

講道館杯柔道大会

3月19・20(木)

全国高校柔道選手権大会個人団体 (19日東京武道館・20日日本武道館)

3月30日(日)

全国中学生柔道大会 (東京武道館)

II 委員会だより



審判員の資質向上を

審判部長 七段 田中秀幸

このたび講道館柔道試合審判

規定の改正(平成7年10月27日)があり、平成8年1月1日から実施されている。改正にあたっては、数回にわたり、審判委員会、小委員会、審判委員と選考審査委員の合同会議等を経て、慎重に検討した結果と聞いている。

理解の徹底を図った。

年が明けて新規定で実施される2月の全日本選手権大会県予選のとき、審判長として「新規定の適用にあたり、いかにしてミスのない大会にしようか」を考え、審判会議に提出する資料づくりに苦心した。

今回の改正の主なポイントは、服装・投げ技と固め技の場合内外の扱い、主審の動作・禁止事項の条項の細分化・反則の累積なし・医師の処置等である。

改正点を示した冊子に目を通して、まず感じたことは今回の改正によって、国際柔道連盟試合審判規定にほとんど近くなったということである。内容を確認するため、昨年11月末、愛知県武道館にて行われた改正点の説明会に出席、それを持ち帰って静岡県東・中・西部でそれぞれ伝達講習会を開催し、内容の



3月中旬、Aライセンス審判員に対する研修会が東京の講道館で行われ、出席した。当然、今回の改正点に議論が集中し、熱心な質疑応答が繰り返されたが、審判委員会でもまだ意志統一できていない点も見られた。今回の改正は内容が大きかっただけに、新規定に慣れるのに時間がかかると思われるが、若い審判員たちは平素国際規定を扱っているせいか、最近では上手にこなしているようにみえる。

全柔連では平成2年から公認審判員制度を設け、審判員の養成とその資質の向上を図っている。審判員の名称はA・B・Cライセンスに分かれ、それぞれ全国的大会、地区ブロック大会、県大会の審判員となる資格を持つ。

試験を行い、成績によってその年度の受験者を決定している。あと、6〜7年後に迫った静岡国体に向けて、早く予定の人数を揃えたいと考えているのだが、全柔連からの受験者の割当ての人数が少なく、思うように養成計画が進まず、頭を痛めている。平成7年から県レベルの大会においては、審判部で審判割当て表を作成し、前期・後期と半年ごとに事前に審判員に連絡している。このことは「早めに予定が立てられて良い」と好評であり、協会の経費節約にも役立つようである。「以前に比べて、本県の審判員の資質が向上した」との声を時々耳にするが、審判員自身の研鑽の賜物であろう。審判部として少しでもその手助けができればと思い、今後の方針を検討中である。

- 平成8年5月3日(金) 静大柔道場 (参加校)
- 第13回静岡県大学高専柔道春季優勝大会
- 80kg級 (23名)
    - 優勝(三)中村達也(浜医大)
    - 二位(二)中村透(静大)
    - 三位(初)鈴木健(沼高専)
    - 優勝(二)酒井海渡(東海大)
    - 二位(二)谷川尚(静大)
    - 三位(二)会田浩二(東海大)
  - 80kg超 (11名)
    - 優勝(二)酒井海渡(東海大)
    - 二位(二)谷川尚(静大)
    - 三位(二)会田浩二(東海大)
  - 68kg級 (20名)
    - 優勝(二)植松信二(日大)
    - 二位(二)樽林正人(静大)
    - (一)吉見勤(静大)
  - 無段の部 (13名)
    - 二位 今好広(沼高専)
    - 三位 吉田謙太郎(日大)
    - 優勝(二)河原将士(東海大)
  - ▼個人の部
    - 女子の部 (7名)
      - 優勝(初)市野有清香(東海大)
      - 二位(初)渡辺綾香(静大)
      - 三位(初)望月美帆(県大)
    - 男子の部
      - 優勝(初)市野有清香(東海大)
      - 二位(初)渡辺綾香(静大)
      - 三位(初)望月美帆(県大)
  - ▼団体の部
    - 優勝 東海大学海洋開発工学部A
    - 二位 //
    - 三位 静岡大学
  - ▼形の部
    - 優勝 二段 森本泰臣(静大)
    - 二段 石渡陽次(//)
    - 二位 二段 樽林正人(//)
    - 初段 中野誠(//)

III 静岡国体柔道競技会場招致記念

静岡県三地区対抗団体柔道大会オープン

大会主旨

平成15年国民体育大会柔道競技を静岡県浜北市で開催するにあたり平素からの力の蓄えが最も大切な要素であり、計画的強化策を講じることが不可欠となります。そこで浜北市では柔道競技招致を記念し、併せて強化策の一環となることを考え、当大会を実施するに至った。また今後の啓蒙活動に鑑み広く浜北市民及び県民への関心を高めていくことの一助としたい。

- 1 主催 浜北市教育委員会
2 主管 静岡県柔道協会
3 後援 静岡県体育協会
4 期日 平成9年2月11日(火) 10時30分開始
5 場所 浜北市体育館
6 対抗方法 国体柔道競技の体重区分でチームを編成し、三地区それぞれ成年・少年(高校生)男女4チームとし、地区対抗戦とする。
7 種別

1 成年男子

- 先鋒 60kg級 次鋒 71kg級
中堅 86kg級 副将 86kg超級
大将 無差別級

成年女子

- 先鋒 52kg級 中堅 66kg級
大将 無差別級

2 少年男子

- 先鋒 60kg級 次鋒 71kg級
中堅 86kg級 副将 95kg級
大将 無差別級

少年女子

- 先鋒 52kg級 中堅 66kg級
大将 無差別級

8 参加資格

(1) 選手は、静岡県の各地区に居住、在学、勤務のいずれかの条件を満たし、静岡県柔道協会を通して全柔連に登録していること。

(2) 成年の部

・大学生は、その卒業高校所在地からも参加すること。

とができる。

- ・教員も参加できる。
・高校3年生以上を範囲とする。

(3) 少年の部

・高校2年生以下(昭和54年4月2日以降生まれ)を範囲とする。

9 大会申込

平成9年1月27日(月)までに地区幹事長が申し込むこと(事務局宛)

10 試合方法

種別毎に地区対抗リーグ戦とする。

11 審判規定

講道館柔道試合審判規定による。優勢勝の判定基準は規定40各(2)号とする。注意および有効以上

12 審判員

各地区6名とする。申込時に氏名を記入する。

13 試合時間

男子4分、女子3分とする。

14 計量

9時30分から30分間行う。

15 表彰

一位を表彰する。

16 参加料

不要

17 その他

事務局だより

- (1) スポーツ障害保険は主催者が加入する。
(2) 出場者で県柔道協会未加入者は、申込時に手続きを完了のこと。

1 8・9年度協会役員名簿の入用の方は事務局まで。若干の残部があります。

2 平成15年の静岡国体に関する問い合わせ等は、県柔道協会事務局または浜北市役所スポーツ振興課へ。

3 昇段に関する問合せは県事務局へ

4 審査会・月次の申込は、期日厳守でお願いします。

5 「柔道しずおか」創刊号をお届けします。ご感想、ご意見を事務局へ。

第13回静岡県大学高専柔道秋季優勝大会

平成8年11月3日(日) 静大柔道場(参加校)

- 日本大学国際関係学部
沼津工業高等専門学校
東海大学海洋開発工学部

静岡県立大学

静岡大学

静岡産業大学

形の部

- 優勝 初段 山口正博(静大)
初段 亀山 豊(〃)
二位 初段 太田悟史(〃)
上田耕平(〃)

団体の部

- 優勝 静岡大学
二位 東海大学海洋開発工学部 A
三位 〃 B

個人の部

- 女子の部 優勝(初)渡辺綾香(静大)
(7名) 二位(初)仙石朋子(東海大)
三位 新出智恵美(日大)
優勝 今 好広(沼高専)
(12名) 二位 伊木友浩(東海大)
三位 加藤鷹一(東海大)

68kg級

- 優勝(〃)榎林正人(静大)
二位(〃)荒川直己(静大)
三位(〃)植松信二(日大)

80kg級

- 優勝(〃)山本賢志(県立大)
二位(〃)長谷川和由(静大)
三位(〃)布川登美男(産業大)

80kg超

- 優勝(〃)谷川 尚(静大)
二位(初)西墻育男(産業大)
三位(〃)会田浩二(東海大)

第38回 静岡県柔道祭

豪華な形の演武一堂に

優勝 一般 焼津誠道館 高校 沼津学園高
中学 東海大一中 小学 高山柔道塾

《第38回静岡県柔道祭》

平成8年5月5日(日)祝

於静岡市中央体育館

▼平成8年度特別功労賞受賞者

八段 安原精二郎

七段 増田 保

六段 下村石蔵

五段 大塚 馨

四段 山下 保

三段 外山隼人

▼平成8年度功労賞受賞者

六段 斉藤 実

六段 木内孝教

五段 花村弘一

五段 小出裕一

五段 一瀬 誠

五段 鈴木敏充

四段 新村昌司

四段 植田重治

四段 野沢義雄

二段 大木 実

▼講道館柔道形の部

投の形

(取)五段 西川孝治(静西高教)

(受)四段 小林 章(静市高教)

固の形

(取)五段 横山尚博(門池小教)

(受)四段 佐野慎吾(清水町南中教)

柔の形

(取)女二段 沼野由香利(藤南高教)

(受)女初段 沼野 茜(静学短大)

極の形

護身術

(取)七段 田中秀幸(静大教)

(受)二段 谷川 尚(静大)

五の形

(取)七段 永野哲夫(静柔俱)

(受)七段 佐々木秀男(清東高教)

古式の形

(取)七段 瀧井康次郎(瀧井道場)

(受)六段 熊谷幸洋( ))

▼小学校の部

1位 高山柔道塾

2位 浜北柔道スポーツ少年団

3位 葦山町柔道教室

3位 焼津誠道館

▼中学校の部

1位 東海大学第一中学校

2位 北浜中学校

3位 錦田中学校

3位 北山中学校

▼高校の部

1位 沼津学園高校

2位 浜北西高校

3位 東海大学第一高校

3位 静岡学園高校

▼一般の部

1位 焼津誠道館

2位 総合警備保障

3位 三島柔道会

3位 富士市柔道会

(優秀選手)

小学生

(取)七段 高田勝之(静岡県警)

(受)六段 藤野公一( ))

村田竹織(高山柔道塾)

小出敏己(浜北柔道スポ少)

望月成憲(東海大一中)

河嶋佑紀(北浜中)

大村昌弘(沼津学園高)

名倉健多(浜北西高)

曾根由多(焼津誠道館)

藤井義昭(総合警備保障)

▼中学校女子個人の部

1位 風間美佳(三島柔)

2位 田中好子(観山)

3位 入山理恵(長田西)

3位 影山多世(積武館)

1位 今井 歩(金岡)

2位 望月加奈子(橘)

3位 伊熊通恵(西部)

3位 佐野美樹(長岡)

1位 田中千尋(高松)

2位 石館奈央子(籠上)

2位 吉田真由美(高柔)

3位 菊池朝美(大仁)

1位 土井晴恵(福田)

2位 佐々木由佳(豊田)

3位 池田 愛(藤柔俱)

3位 大石千里( ))

速報

第51回国体

広島(廿日市市)

成年5位入賞

天皇杯得点獲得

10月13日 少年男子 一回戦

熊本① | 0 静岡

先鋒 中村 \* 渡部

次鋒 野中 \* 佐々木

中堅 吉永○ | 小椋

副将 前田 \* 名倉

大将 藤木 \* 大村

10月14日 成年男子

一回戦 茨城○ | 福井

二回戦

静岡① | 1 茨城

10月15日 三回戦

香川1 | 3 静岡

準々決勝

静岡0 | 2 奈良

先鋒 渡部 | ○ 野村

次鋒 井川 \* 三輪

中堅 大村 \* 高橋

副将 根本 | ○ 村元

大将 菊地 \* 井上

# 熱戦 譜

## 《東海高校総体》

6月22・23日 岐阜市

### 男子団体

準決勝

沼津学園 2-0 浜北西

名張(三重) 2-0 星城(愛知)

決勝

名張 2-1 沼津学園

(静岡学園・東海大一予選リ

ーグ敗退)

### 男子個人

軽量級

1位 渡部成也(静学)

2位 朝波正志(東一)

軽中量級

1位 新村 寛(浜工)

8位 大村正志(静学)

中量級

3位 小椋俊彦(静学)

3位 中村 歩(静高)

軽重量級

1位 名倉健多(浜北西)

8位 辺田真一郎(東一)

重量級 2位 大村昌弘(沼学)

3位 中里 学(沼学)

### 女子団体

決勝

常葉学園橘 2-1 桜丘(愛知)

(庵原高は一回戦で敗退)

### 女子個人

48 kg級

3位 一瀬のぞみ(庵原)

” 長野 文(静商)

52 kg級

1位 山本義美(江之島)

2位 渡辺末緒(市立沼津)

56 kg級 1位 野口真弓(橘)

61 kg級

1位 野本 理沙(江之島)

2位 山田幸枝(庵原)

66 kg級

2位 酒井文子(市立沼津)

8位 牧野仁美(”)

72 kg級

1位 海老名裕美(”)

8位 渡辺美弓(東一)

72 kg超

1位 坂倉奈美子(市立沼津)

2位 漆畑加奈子(橘)

## 《全国高校総体》

8月9日~12日 山梨県甲府市

### 男子団体

予選リーグ

沼津学園 3-0 戸短大付(茨城)

沼津学園 1-3 九州学院(熊本)

(決勝トーナメント進出ならず)

### 女子団体

予選リーグ

庵原高 1-2 日南(宮崎)

庵原高 0-3 京都学園

(決勝トーナメント進出ならず)

### 男子個人

軽量級

5位 渡部成也(静学)

軽中量

予選敗退新村 寛(浜工)

中量級



予選敗退小椋俊彦(静学)

” 名倉健多(浜北西)

重量級 5位 大村昌弘(沼学)

予選リーグ 2勝

トーナメント 準々決勝進出

〇78 kg級

渥美文宏(東海大一中)

予選リーグ 1勝1敗

《第27回全国中学校柔道大会》

《第21回全国教員柔道大会》

〇48 kg級

鈴木千春(沼津第三中)

予選リーグ 1勝1敗

〇52 kg級

望月加奈子(常葉学園橘中)

予選リーグ 1勝1敗

〇56 kg級

小野田久美(小川中)

予選リーグ 1勝1敗

〇56 kg超

土井晴恵(福田中)

予選リーグ 1勝1敗

《第二日目(8月22日)》

男子個人戦

〇55 kg級

小澤庸佑(東海大一中)

予選リーグ 1勝1敗

〇65 kg級

日下徹朗(服織中)

予選リーグ 2勝

トーナメント準決勝進出3位

〇78 kg級

野村祐介(東海大一中)

予選リーグ 2勝

トーナメント 準々決勝進出

〇78 kg級

渥美文宏(東海大一中)

予選リーグ 1勝1敗

《第21回全国教員柔道大会》

平成8年8月7日 於箕面市

2回戦

(静岡) 1-3 (福岡)

渡辺 × 松尾

小林 △内股○ 芹田

須田 △優勢○ 野口

藤巻 △横四方○ 井上

塚田 ○優勢△ 広瀬

《国体第17回東海ブロック大会》

少年男子 1位(代表権獲得)

少年女子 2位

成年女子 3位

(少年男子)

静岡2-1 岐阜

静岡3-0 三重

静岡②-2 愛知

先鋒 渡部

次鋒 佐々木

中堅 小椋

副将 名倉

大将 大村

第27回

全国中学柔道大会レポート

快進撃 東海大一中チーム  
全国三位入賞

―日下徹朗選手(服織中)も65kg級三位―



第27回全

国中学校柔道大会が平成8年8月20日(火)〜22日(木)に岐阜メモリアルセンター愛

ドームで行われた。本

県勢の活躍はめざまし

く、男子団体では、東

海大学第一中学校チー

ムが、昭和50年に新居

中学が三位入賞をして

以来、21年ぶりに悲願

の三位入賞

を果たした。また、男子個人で

も65kg級で、服織中学校・日下

徹朗選手が堂々三位に入賞、78

kg級でも東海大学第一中学校、

野村祐介選手がベスト8と、昨

年の高野舞選手(長田西中)の

女子48kg級優勝に続いての快挙

を成し遂げた。

東海大一中の熱戦の跡を一部

紹介しよう。

〈決勝トーナメント〉

▼一回戦  
東海大一中 3対0 黒崎(新潟県)  
▼準々決勝  
東海大一中 1対0 小杉(富山)  
野村祐介 引分 柿谷祐平  
後藤久四郎 引分 五十嵐友紀  
柿本謙也 引分 五十嵐正信  
○渥美文宏 技有 森田祥夫  
○望月成憲 引分 堀田潤一  
▼準決勝  
国士館(東京) 4対0 東海大一中  
○伊藤 歩 有効 野村

○皆川和也 内股 後藤  
○秋田博善 柿本  
岩上真琴 引分 渥美

○高井洋平 大外刈 望月

男子団体は全国の強豪うごめ

く中、激戦が展開、古豪、小杉

中との激突は実力伯仲の好ゲー

ム。引分けに次ぐ引分け、キャ

プテン渥美の執念の出足払が技

有となり、東海大一中念願の準

決勝進出を果たすことができた。

準決勝は優勝した国士館中と

当たり善戦空しく敗れたとはい

え、中学生らしい、精一杯の闘

いぶりは駆け付けた応援団のさ

わやかな拍手を呼んだ。

チームづくりは県下の中学柔道

指導者の指標となっている。

特に近年は「寝技」の強化に重

点をおき、地道な反復練習を積み

重ね、無敵の国士館中にもひけを

とらない寝技の地方向上を心掛て

きた点を見逃すことはできない。

小柳津監督は、一方では、地

域の柔道の発展にも心を尽くし、

若手の中学柔道指導者のネット

ワークをひろげ、静岡市などは

二十三校もの柔道部が活動する

に至っている。

底辺拡大と競技力向上とは別

個のものではなく、常に縦糸と

横糸としてつながっていかなく

ればならないことを身をもって

示していると言えるのではない

だろうか。

さらに、東海大一中柔道部父

母の会の物心両面における万全

の支援体制も忘れてはならない

ことだろう。

東海大一中は余勢をかって、

9月15日(祝)、東京講道館で行わ

れた第7回マルちゃん杯選抜少

年大会においても、中学生の部、

団体戦で3位に入賞している。

県柔道協会は、その健闘を讃

え第50回静岡県民スポーツ祭柔

道競技の大会当日(平成8年11

月17日)、服織中学日下徹朗選手

とともに特別表彰を行った。